

レポート

グローバル製造業 と言語特化型AI

조



グローバルに活躍する製造業の企業が
いかに言語AIを活用して多言語コ
ミュニケーションの円滑化と信頼関係の構
築を実現しているか

製造現場



Á



Ĝ



DeepL

要旨

製造業にとって効果的なコミュニケーションが重要な理由

製造業は新たな製品を生産し市場に提供する産業ですが、その過程で情報やアイデアの共有と伝達が明確に成されなければ成功は難しいでしょう。

製造業で活躍している企業は、新しいアイデアの検討や顧客からの要望の共有、品質保証に至るまで、ビジネスのあらゆるシーンで明確かつ効果的なコミュニケーションを構築しています。



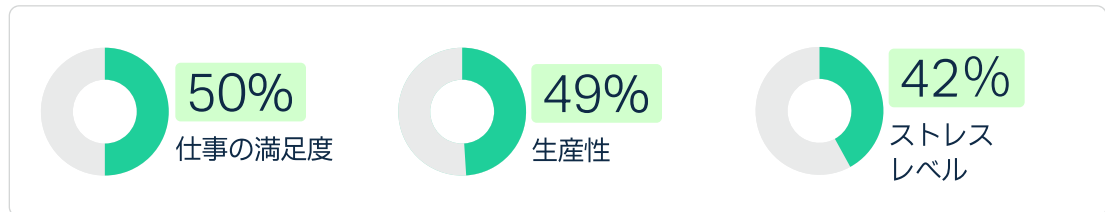
ここで、同僚、パートナー企業、顧客の5人に1人として円滑に意思疎通が図れない状況を想像してみてください。この状況がまさに、製造業のサプライチェーンや顧客対応で従業員が直面している言語の問題です。

英語がビジネスの共通言語であるとはいえ、実用的な英語を話せる人口は世界でわずか20%にすぎません¹。



¹ Pearson, "How English empowers your tomorrow," March 2024.

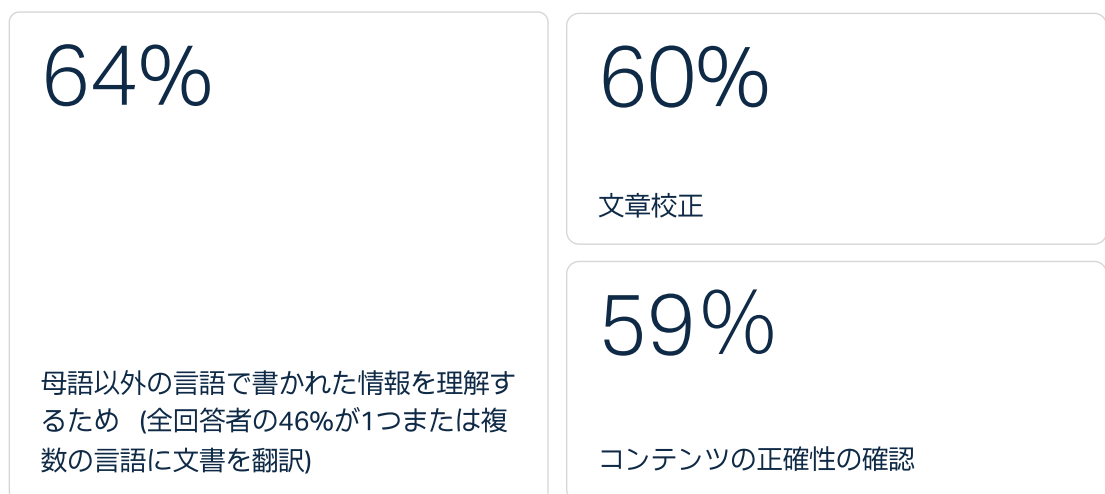
言語の溝は製造業に様々な悪影響を及ぼします。Forbes Advisorが米国のオフィスワーカー1,000人を対象に行った調査によると、回答者の半数近くが以下の項目に対し、質の低いコミュニケーションが悪影響を及ぼしていると回答しました²。



製造業は1980年代後半からAIを活用し、部品の組み立てなどの反復作業を自動化してきました。現在同業界は、AIの力を多大に利用して、コミュニケーションの課題をコスト効率よく解決しており、その過程では業務の最適化や生産性の向上も実現しています。

製造業の2024年事業戦略に最も影響を与えた要素として、AIは2番目に多く企業が言及した項目でした³ (45%)。さらに、製造業では生成AIよりも言語に特化したAIが4倍の頻度で活用されています。上記のようなデータを見れば、このような傾向も納得できます⁴。

2024年のDeepLの調査で、製造業の従業員は言語AIを使用する理由として以下を挙げました。

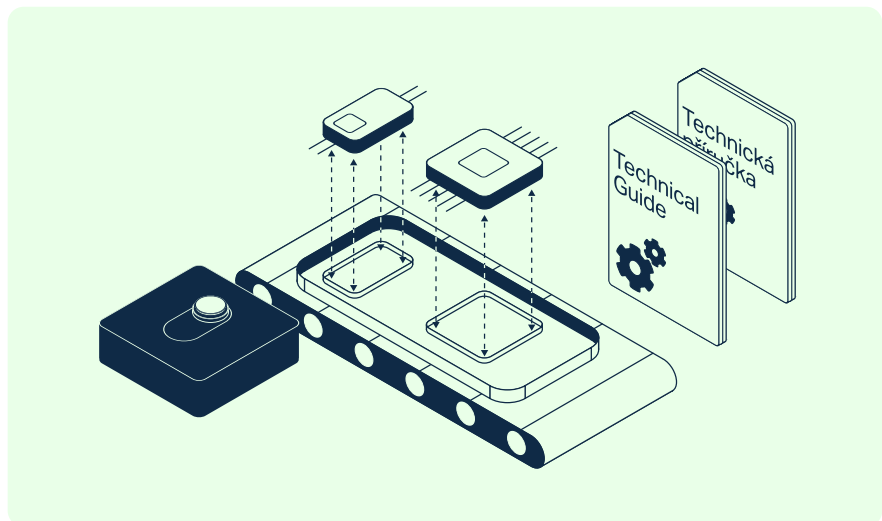


² Forbes Media, "The State of Workplace Communication in 2024," March 8, 2023. ³ fictiv, "2024 State of Manufacturing Report," n.d. Accessed September 24, 2024. ⁴ Statista, "Artificial intelligence (AI) and generative AI adoption in businesses globally in 2023, by function," May 3, 2024.

本レポートの要旨



- グローバルな製造業にとって効果的なコミュニケーションが不可欠な理由と、従来のツールでは不十分な理由
- 製造業におけるAIの活用方法と導入の躊躇につながる懸念事項
- 製造業の主なユースケースでAIを安全に使用方法
- グローバルに活躍する企業による言語AIの活用事例
- 正しい選択を行い、自信を持って前進するには



目次

要旨	製造業にとって効果的なコミュニケーションが重要な理由	2
第1章	コミュニケーションの非効率性が製造業にもたらす代償	6
第2章	製造業がAIの導入で直面する課題	15
第3章	言語AIで安全に生産性を向上	22
第4章	製造現場から顧客先まで、円滑なコミュニケーションを実現するには	27
第5章	国境なきものづくり — 言語の壁を超えたコミュニケーション	35

第1章

コミュニケーションの 非効率性が製造業に もたらす代償

「とりわけグローバル企業にとって、言語は難しい課題となっています」



DeepLの創設者 / CEO
ヤレック・クテロフスキー (博士)

Source: Raconteur. "Meet DeepL: the startup changing the language of business," June 25, 2024.

1.1

製造業の成功は円滑な コミュニケーションが鍵

どんなビジネスでもそうであるように、製造業でも効果的なコミュニケーションが成功の基礎を成します。明確なコミュニケーションは、従業員の仕事に対する意欲から顧客満足度、全体的な収益性にまで幅広く影響しますが、以下の目標を達成する上で特に重要とされます。

- 1** 円滑な協働を通してアイデアの創出、イノベーション、競争力を最適化する
- 2** 品質基準の徹底によって高品質な製品を提供し、顧客の期待に応える
- 3** 安全な作業環境を確保し、エラー、事故、製品のリコールを最小限に抑える
- 4** サプライチェーン全体でシームレスなコミュニケーションを図り、業務の中断を最小限に抑え、安定した生産と顧客満足度を実現する
- 5** 生産性の向上と共に、業務の効率化とコスト削減を実現する

企業が掲げるコミュニケーションの目標

-  業務の効率化
-  誤解の回避
-  規制とポリシーの遵守
-  一貫性のあるブランディング

出典：2023 DeepL Organizational Communication Practices Research

1.2

質の低いコミュニケーションの大きな代償

製造業における多くの問題は無駄の多いコミュニケーションに原因があり、代償の大きいミスや、危険なミスにつながりかねません。具体的には、時間のかかる問題解決、生産の遅れ、品質管理の問題などが挙げられます。

不正確な翻訳が引き起こしかねない大きな問題

下記の例から、質の低い翻訳がいかにして大きなコストを伴う、場合によっては危険なミスの原因になり得るかが確認できます。逆に、技術文書を正確に解釈する質の高い翻訳は、円滑かつ安全な業務の遂行を支援できます。

英語 (原文)	低品質の日本語翻訳	高品質の日本語翻訳
The maximum load must not be exceeded.	⚠️ 負担の上限を超えてはいけません。	✅ 最大荷重を超えないようにしてください。
Keep hands clear of moving parts and never bypass safety mechanisms.	⚠️ 可動部の手をクリアにし、決して安全装置を迂回しないでください。	✅ 可動部には手を触れないようにし、安全装置を迂回しないでください。
Double-check the machine's calibration before starting production.	⚠️ 生産を開始する前に、機械のキャリブレーションを2倍にしてください。	✅ 生産を開始する前に、機械のキャリブレーションを再確認してください。

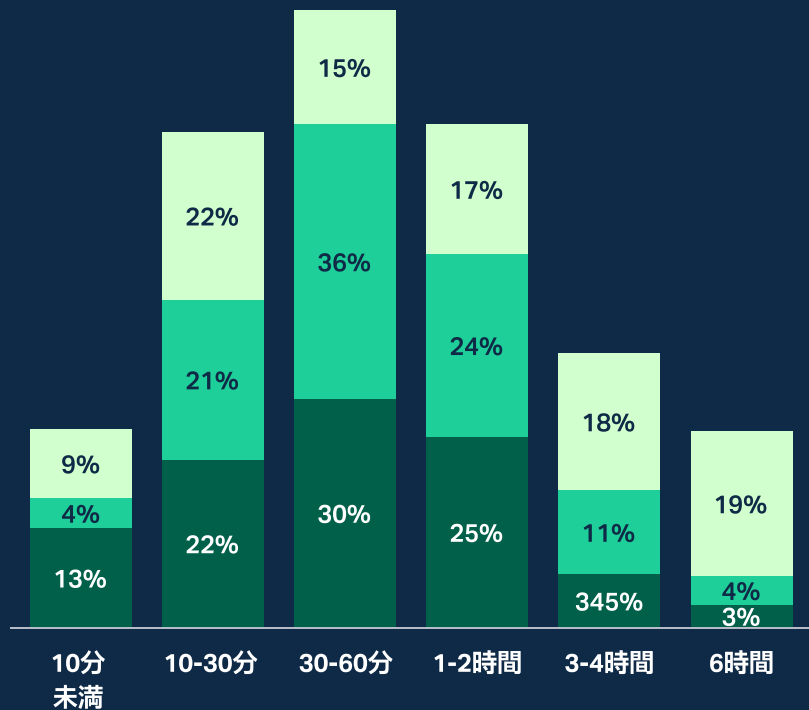
出典：Axios HQ "2024 State of Internal Communications". n.d. Accessed September 24, 2024.

従業員の貴重な時間を奪う 確認作業

組織のあらゆる層で、質の低いコミュニケーションを原因とする課題の対処に多くの時間が費やされています。貴重な時間を奪われることがなければ、どれ程業務が捗るでしょうか？

非効率なコミュニケーションによって起こる問題の対処に、
毎日どれくらいの時間を費やしていますか？

- 経営幹部、社長、オーナー
- 副社長、シニアリーダー
- 従業員



出典：Axios HQ "2024 State of Internal Communications". n.d. Accessed September 24, 2024.

組織全体に悪影響を与える非効率なコミュニケーション

企業は多くの場合、従業員が不明瞭なコミュニケーションの理解にどれほどの時間を費やしているか把握していません。しかし従業員の給与に換算すると、これらすべての時間の積み重ねが組織にとって大きな負担となっていることが分かります。

年間給与	従業員一人当たりの年間平均損失時間	従業員一人当たりの年間平均損失給与
\$10,000 - \$50,000	277時間	↓ \$3,900
\$50,000 - \$100,000	282時間	↓ \$10,140
\$100,000 - \$150,000	368時間	↓ \$22,360
\$150,000 - \$200,000	390時間	↓ \$32,760
\$200,000以上	507時間	↓ \$54,860

出典：Axios HQ, "2024 State of Internal Communications", n.d. Accessed September 24, 2024.

製造業で対応が必要とされる、コミュニケーションに関わる多くのニーズ



- 外国語の設定しかない機器でも効率よく操作できる環境
- 複数の言語で進められる研究開発および時宜にかなったイノベーションに対するサポート
- 法的要件や規制に準拠した、製品ラベルや文書の作成
- 自社や業界固有の技術用語の訳を標準化
- 国際市場のニーズに対応できる文脈に即した翻訳



1.3

グローバルな製造業を複雑化させる多言語環境

誰もが同じ言葉で話し読み書きする場合でも、明確な意思疎通は難しいものです。複数言語を使用する環境となれば、困難さはさらに増します。厳しい規制を守りながら世界各地で事業を展開する製造業の企業なら尚更でしょう。

ë ㄷ ㅈ



製造業では、幅広いサプライチェーンの領域で様々なチームや顧客とのやり取りが発生します。一方、製造においては専門的な機器の操作や作業工程に関する訓練を受けた従業員に依存しています。さらにコミュニケーションツールをセキュリティリスクにさらすサイバー攻撃の増加で、コミュニケーションに関わる課題は複雑化しています⁵。

言葉の障壁や専門用語の不統一は以下を阻害する要因になり得ます。

- 社内外の効果的なコミュニケーション
- 業界基準、法的要件、規制の遵守
- 標準的な手順に則った業務遂行
- 生産性と生産高の向上
- コストパフォーマンスに優れた業務

⁵ IndustryWeek. "Manufacturing Is #1 in Cyber Attacks for Third Straight Year. What Can Be Done?," May 28, 2024.

1.4

非効率で高額な従来の翻訳サービス

製造業は翻訳の重要性を認識しており、年間20億ドル近くを翻訳サービスに費やしています。製造業において翻訳は目新しいものではありませんが、従来の翻訳工程の非効率性とコストに不満を抱いている企業は少なくありません。グローバルな製造現場では、得意な言語が異なる従業員の全員が、複雑な技術用語、図面、指示を正しく理解する必要があります。しかし、現場のニーズを従来の翻訳サービスで完全に満たすのは難しいでしょう。

さらに、翻訳会社や翻訳サービスプロバイダでは、高額な料金にも関わらず、多数の修正やそれに付随するやり取りが頻繁に発生します。限られた時間の中で業務を遂行している製造業の企業にとって、正確性を十分に確保できないサービスは混乱を招きかねません。その代償は大きく、企業や従業員を危険にさらすリスクもあります。



従来の翻訳サービスのマイナス点

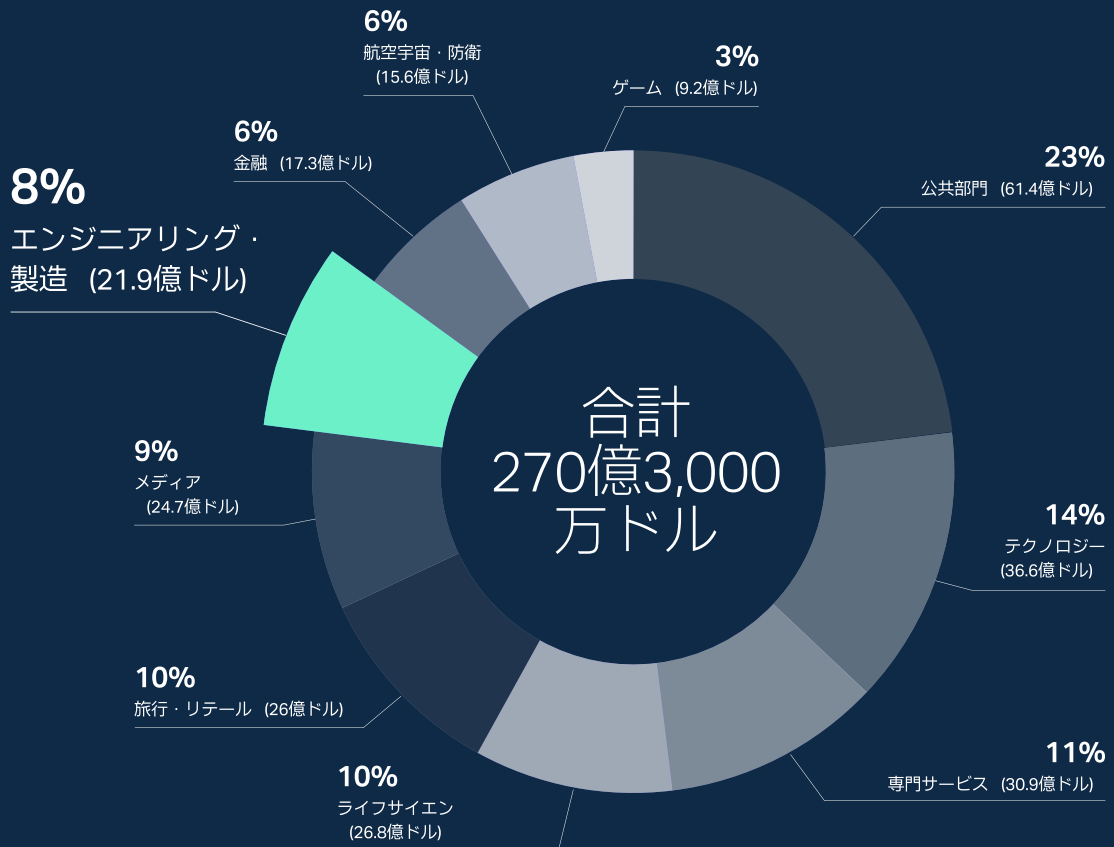
- 翻訳会社のスケジュール調整に時間がかかる
- 翻訳者の稼働時間には限りがあるため、納品までに時間がかかる
- 特に大規模な翻訳の場合、翻訳会社へのコストがかさむ
- エラーや誤訳により追加の編集が必要になる
- クラウドベースの翻訳ツールを使用する場合、データ漏えいのリスクが高まる

言語AIに投資することで、企業は多くの時間とコストを節約できます。また、社内の翻訳者はすべてを一から訳す必要が無いため、翻訳の完成度を上げる作業により多くの時間を割けるようになります。



2023年 言語サービス業界の 分野別市場規模

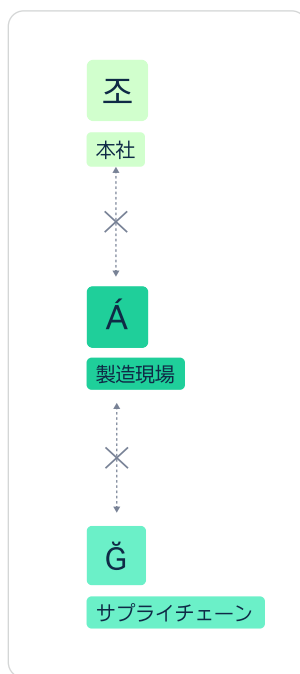
2023年の分野別市場規模は以下のとおりです。



出典：Slator, "Slator 2024 Language Industry Market Report," May 16, 2024.

1.5

一般的なライティングツールが抱える限界



コミュニケーションの問題は、日々の業務における文章の執筆にも及びます。特に製造業のグローバル企業では、従業員の社内公用語のレベルにばらつきがある場合に大きな課題となります。

多くの従業員は、それが第一言語でも第二言語でも、同僚、顧客、パートナー企業との明確な意思疎通に多くの労力と時間を費やしています。必要なスキルや自信が無い人であれば、メールや研究論文、技術文書の下書きにさらに時間をかけることになるでしょう。中には承認されていないツールに頼り、データプライバシーやセキュリティを危険にさらしている従業員もいるかもしれません。

多くの文章作成ツールは英語に重点を置いていますが、多言語で事業を展開する企業にとって最適とは言えません。さらに、一般的に使用されている生成AIや文法の修正ツールでは、文章作成に苦手意識を持つ従業員のコミュニケーションスキルの向上にまで対応できません。事実、業界調査によると、質の低い文章が原因で企業は年間数十億ドルの損失を被っているといえます⁶。

一般的なツールのよくある問題点

- 1つの言語の文章校正にしか対応しておらず、提供できる価値が限定的である
- すべての変更や提案を手動で承認するのに多くの時間を要する
- ツールによるユーザー情報の収集や、外部のデータプロバイダやサーバーへの依存によってデータセキュリティのリスクをもたらす

⁶ Forbes Advisor, "The State Of Workplace Communication In 2024," updated March 8, 2023.

第2章

製造業がAIの導入で 直面する課題

「企業は生成AIのメリットを認識しているが、同時に、この技術に付随する様々なリスクについても気付いている。これらのリスクは、データプライバシー、AIバイアス、知的財産権の侵害などのデータ管理の問題から、不正確または説明不可能な出力をはじめとするモデル管理の問題まで多岐にわたる。その他、セキュリティと不正使用も主なリスクとして挙げられる」

Source: McKinsey. "The state of AI in early 2024," May 30, 2024.

2.1

AIで業務の最適化と生産性の向上を実現



制御しきれない様々な要因が渦巻く、競争の激しいダイナミックな製造業において、企業はコスト効率よく業務を最適化し、生産性を向上させるためにあらゆる機会を模索しています。AIは、このような企業が目標を達成し、競争力を維持するのに有効な技術となるでしょう。

製造業界は1980年代後半から、AIを活用して部品の仕分けなどの反復作業を自動化してきました。



2024年、同業界の事業戦略に最も影響を与えた要素として、AIは製造業の企業が2番目に多く言及した項目でした (45%)⁷。

Forresterの調査によると、製造業が先進技術を導入する主な理由は効率性と生産性の向上であることが分かっています⁸。これは、Gartnerによる調査の中で、製造業が、優先的に投資する対象に生産性の向上に有益なAIを挙げている事とも一致しています⁹。

経験豊富な企業は、すでに最新のAI技術を安全に活用し、サプライチェーンの管理、製品設計、品質管理、検査などの改善に役立てています。そうした中、一部の企業がまだ気づいていないのは、AIが、コミュニケーション上の課題も容易かつ効果的に解決できるという点です。

⁷ fictiv. "2024 State of Manufacturing Report," n.d. Accessed September 24, 2024. ⁸ Forrester. "2023 Buyer Insights: Advanced Manufacturing Industry," December 18, 2023. ⁹ Gartner. 2024 generative AI case examples across industries. n.d.

2.2

AI導入の遅れにつながる セキュリティ上の懸念

企業はChatGPTなどの汎用AIソリューションに注目するあまり、多言語コミュニケーションを改善できるという言語特化型AIが持つ優位性に気づいていないのかもしれませんが。実際、特化型ソリューションとその高度な機能は、より正確で高品質な出力を提供できることが判明しています。

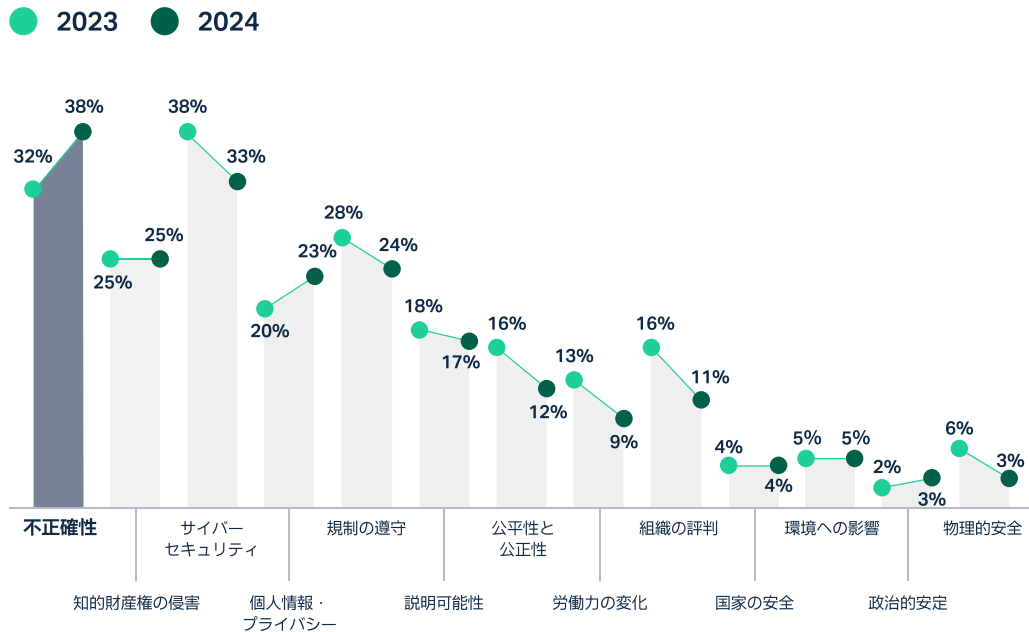
しかし、常にネットワークに接続しているAIが、強力な性能を示す一方で新たなセキュリティリスクをもたらしかねないことも確かです。企業がAIの安全な導入と費用対効果の達成に疑問を持ち、慎重になるのも当然です。



企業の懸念

- 従業員が認可されていない、あるいは管理されていないAIツールを使用する場合や、従業員のデータがAIモデルのトレーニングに利用される場合、企業の専有データ、知的財産、企業秘密の損失または盗難の恐れがある。
- ハルシネーションや誤った情報を生成するAIツールの出力品質の懸念。結果として人気のチャットボットも利害関係の少ないタスク（マーケティングのブレンストーミングなど）にしか使用できなくなる。
- データセキュリティやプライバシーの義務に従わないと規制違反になる。
- AIツールと関連データへのアクセスを認証されたユーザーだけに制限できない。
- ウェブおよびクラウドベースソリューションではサイバーセキュリティ侵害のリスクにさらされる。

組織が軽減したいAI関連のリスクの1位は「不正確性」 (回答者の割合)

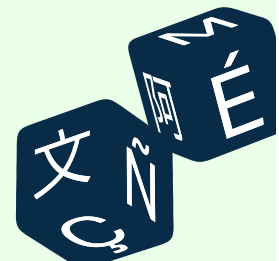


出典：McKinsey & Company, "The state of AI adoption in early 2024," May 30, 2024

「... AIツールの持ち込みに関しては、正式に認可したツールを従業員に提供し、各自が自分のツールを持ち込む必要のない環境を整えることが最善でしょう。AI活用の機会を活かすためには、皆に選択肢を与える必要があります」

J.P. Gownder, Forrester

Forresterのウェビナーを視聴



2.3

シンプルな連携の重要性



製造業の企業はAIソリューションの可能性は理解しているものの、AI技術を活用するために、大きなコストをかけて既存システムをアップグレードすることは望んでいません。当然のことながら、このようなソリューションを既存システムと簡単に連携させ、シームレスなエンドユーザー体験を得たいと考えています。

製造業の多くの企業が置かれている環境では、新旧の技術システムが混在しています。AI搭載ロボットのような新しい機器と従来の古い機器を連携させるという、大きな壁に直面した経験を持つ企業は、AI搭載の翻訳およびコミュニケーションソリューションの導入でも同じ壁に直面すると考えているかもしれません。検討中のAIソリューションが製造業向けに開発されていない可能性があることも懸念事項となるでしょう。

2.4

AIの導入は慎重かつスピーディーに

企業がAIに対する懸念を熟考するのは尤もですが、様子見をしている余裕はありません。AIの導入に躊躇していれば、この新技術が製造業に変革をもたらす中、AIの活用で優位に立つ競合他社に先を行かれてしまいます。

69%

製造業の企業の69%は、AIを搭載したチャットボットとバーチャルアシスタントが、今後5年間で製造業のコミュニケーションに変革を起こすだろうと回答



77%

製造業の企業の77%は、AIにはコミュニケーションを改善する可能性がある」と回答



Source: L2L. "What's Holding Manufacturers Back in 2024?" July 19, 2024.

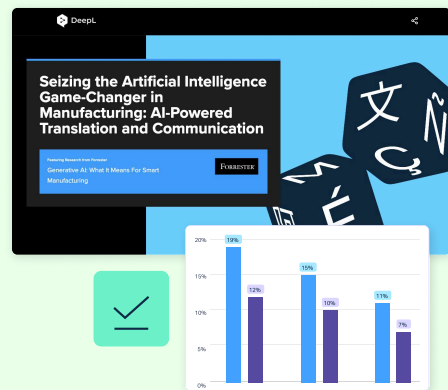
幸い、翻訳およびコミュニケーションの領域では、企業はセキュリティの面で妥協することなくAIを導入できます。特化型AIソリューションは、製造業向けにセキュリティを中核に据えて構築されているからです。

企業が最新のAI搭載ソリューションを検討したり、試験導入したりする中、安全性と即戦力の点で際立っているのが言語に特化したAIです。このソリューションの一番の利点は、従業員がすでに使用しているツールやビジネス向けアプリケーションと容易に連携できることにあります。

言語AIがあれば、製造業でも言葉の違いを超えて容易にコミュニケーションを取れるようになります。言語AIの性能をてこに、グローバル展開を促進し、現地市場への浸透を加速させ、従業員と顧客体験を強化するための道を開くことができるでしょう。

2024年のレポートでForresterは、製造業に対してAI技術の可能性を軽視せず、今すぐにでもその利益を享受するようにと助言¹⁰。

Forresterの調査をダウンロード



¹⁰ Forrester, "Generative AI: What It Means For Smart Manufacturing," March 8, 2024.

第3章

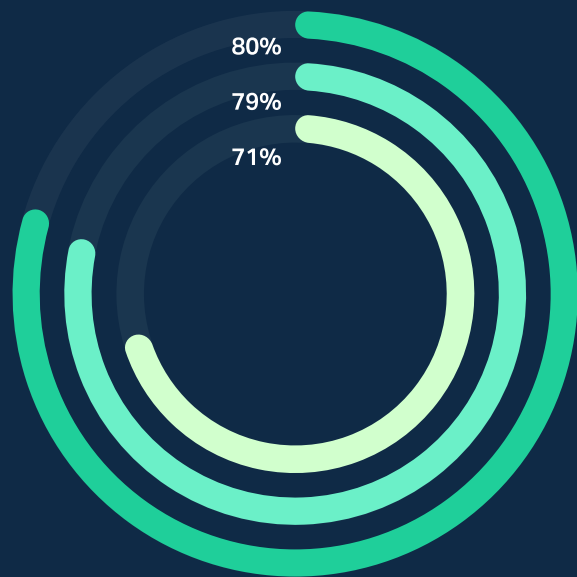
言語AIで安全に生産性を向上

価値を創出するAIソリューションへの需要が高まる中、言語AIは、製造業の企業が高い費用対効果と競争優位性を得るための簡単かつ安全な選択肢のひとつとなります。

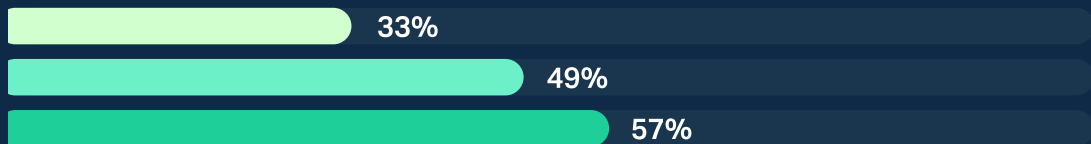
製造業の従業員は仕事とプライベートでDeepLを活用

● ドイツ ● 米国 ● 日本

仕事：



プライベート：



出典：2024 DeepL Manufacturing User Research

3.1

従来のソリューションにはない特化型AIの利点

翻訳会社に外注している企業の中には、納期の遅れや高額な費用などの課題に直面しているケースが多くあります。また、人気のオンライン翻訳ツールを利用する場合、分散したデータセンターや脆弱なセキュリティによるデータ漏えいのリスクが付きまといます。機械翻訳を活用するAIツールの多くは、モデルのトレーニングにユーザーの翻訳を再利用するため、セキュリティ上の懸念も高まります。

一方、業界向けに専門的な文書や技術用語に基づいてトレーニングされた言語AIは、はるかに高い品質と精度を実現します。さらにAIを利用しているため、膨大な量の文書やデータをすばやく正確に翻訳できます。

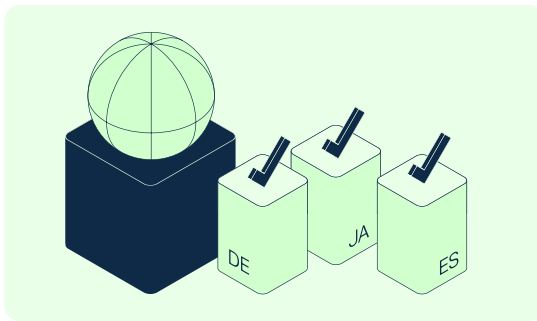
言語データから学習した特化型AIツールは、選別なくデータを自動的に取り込む一般的な汎用ツールや、ルールベースの文法チェックツールとは一線を画します。DeepLのような特化型AIツールは、様々なビジネスコミュニケーションにおける文脈を理解し、用語や表現の言い換えや、最適な文体およびトーンをリアルタイムで提案します。そのため、読み手や活用シーンに合った語彙や言い回しを見つけ、文章を改善することができます。加えて、特化型AIツールなら企業の大切な知的財産を安全に保護できます。DeepLを例に挙げると、自社のモデルのトレーニングにユーザーのデータを使用することはなく、翻訳後すべてのテキストは直ちに消去され、厳しいグローバル規制にも準拠しています。さらに、DeepLはEU圏内にある専有サーバーを管理しています。






3.2

言語AIが業務にもたらす効果

言語AIが製造業の様々な環境で役立っている理由



-  社内外のコミュニケーションを改善
-  チームと組織全体の作業効率を向上
-  規制を遵守しつつ、新規市場への進出をサポート

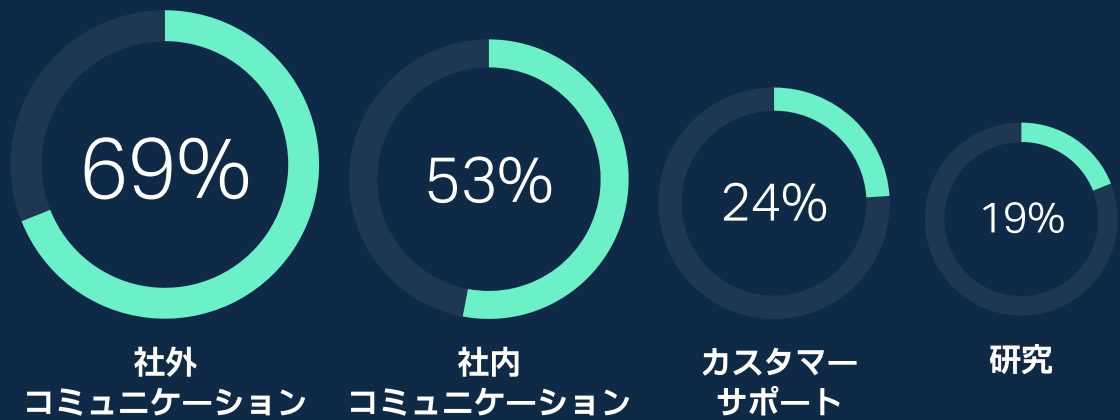
言語AIで実現できること

- ✓ 膨大な技術文書の高品質な翻訳
- ✓ 翻訳作業の効率化
- ✓ 従業員同士の円滑な意思疎通




効果

- ✓ コストの削減と業務の改善
- ✓ 高額な翻訳会社への依存の軽減
- ✓ 誤解の少ない、明確で効果的なコミュニケーション

製造業の従業員が言語AIを優先的に使用する事例



製造業で言語AIを使用する主な理由

-  母語でない言語で書かれた情報の理解 (64%)
(全回答者の46%は1つまたは複数の言語に文書を翻訳)
-  文章の推敲 (60%)
-  コンテンツの正確性の確認 (59%)

出典：2024 DeepL Manufacturing User Research

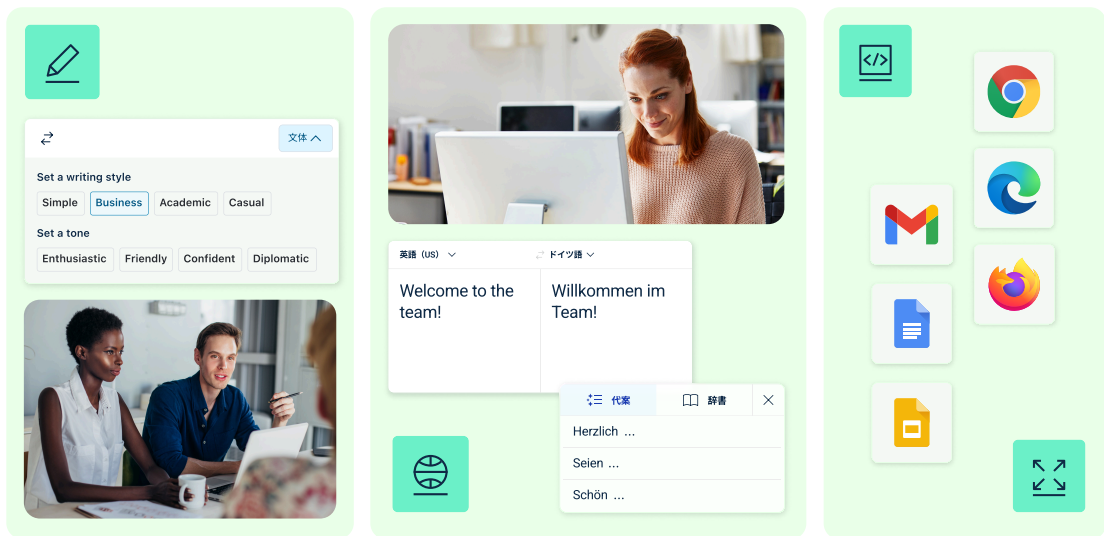
第4章

製造現場から顧客先まで、 円滑なコミュニケーション を実現

国や地域を超えたつながりが加速している現在、言語AIを搭載したDeepLの翻訳およびコミュニケーションソリューションを活用することで、製造業は業務の効率化や顧客体験の向上、シームレスなグローバル展開を実現し、競争力を高めることができます。

4.1

DeepLを活用し、多言語でのコミュニケーションと共同作業を円滑化



DeepLはAI翻訳と文章作成アシスタント、およびAPIを提供し、製造業における多言語コミュニケーションと共同作業の効率化を支援します。高性能なDeepLの機能を活かすことで、ワークフローの簡素化と貴重な時間の節約を実現し、**精度と品質**で妥協することなく翻訳とコミュニケーションの規模拡大を図れます。

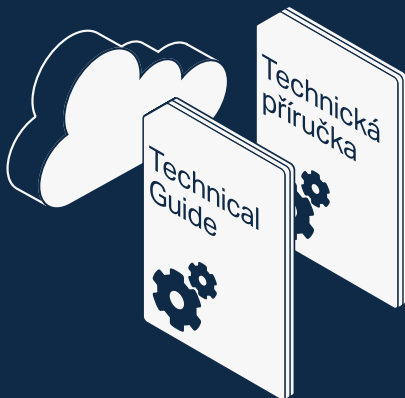
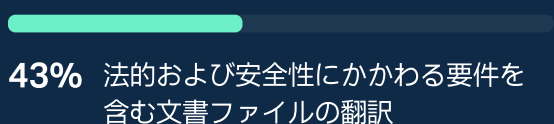
Forrester Consultingが実施したDeepLのTotal Economic Impact™調査では、複合組織が3年間で345%のROIを達成し、翻訳時間を90%短縮したことが明らかになりました。



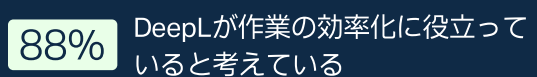
DeepL翻訳

DeepLの画期的なAI技術を駆使した、正確かつニュアンスを汲み取る機械翻訳は、卓越した翻訳品質を提供します。DeepL翻訳があれば、製造業の企業は技術文書、テキスト、写真、ファイル、スピーチなどを30以上の言語に翻訳できます。またテキスト翻訳では、数多くの言語の組み合わせで高精度の翻訳を得られます。

世界中の製造業における DeepL翻訳の活用事例



DeepL翻訳を活用する理由 (回答者の割合)



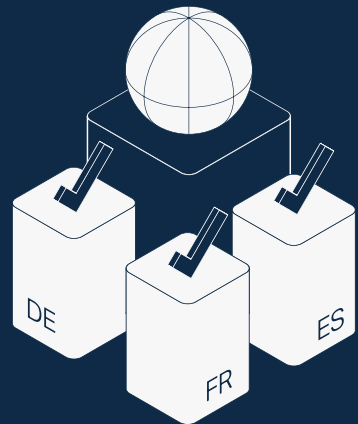
出典：2024 DeepL Manufacturing User Research



DeepL Write

社内の重要なコミュニケーションから顧客向けのメッセージや契約書まで、DeepL Write Proは企業が正確なコミュニケーションを世界中で安全に行えるよう支援します。

AIを搭載した文章校正アシスタントであるDeepL Writeを活用すれば、第一言語で書いた文章を細かく推敲したり、第二言語（または第三言語）で書いた文章の正確性を確認できるため、文章によるコミュニケーションの質向上を図れます。文法の修正に加え、書き手は必要に合わせて言い回し、トーン、文体、語彙の提案から最適なものを採用して、元のメッセージから逸脱することなく文章を改善できます。



製造業の従業員によるDeepL Writeの使用事例



72%
文法とスペルチェック



62%
プロフェッショナルな文章
に上げるための推敲



57%
文章作成能力の向上

出典：2024 DeepL Manufacturing User Research

4.2

世界中の製造業の従業員が活用するDeepL

Alstom、Beiersdorf、日立、日本航空電子工業（JAE）、マツダ、パナソニック コネクトをはじめとする大手メーカーは、DeepLの正確で安全な言語AIプラットフォームとソリューションを採用しています。



次ページに示す通り、DeepL翻訳は世界各地で、製造業の従業員が抱える多様なニーズに対応しています。例えば、ドイツと米国では、社内外のシームレスなコミュニケーションが海外のパートナー企業や社内チームとの円滑な意思疎通を実現する鍵となっています。一方日本では、社内コミュニケーションやリサーチペーパー等をグローバルな読み手に向けて英訳するといった文書翻訳に対して大きな需要があります。このデータから、日本の、国際化を進め、各国関係者との連携を強化したいという姿勢がうかがわれます。

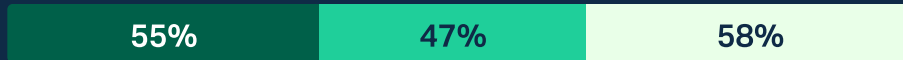
製造業の従業員による DeepL翻訳の主な活用事例

● ドイツ ● 日本 ● 米国

社外コミュニケーション



社内コミュニケーション



資料作成



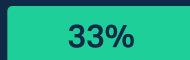
契約書および法律関連文書



カスタマーサポートのチケットやチャット



研究報告書および出版物

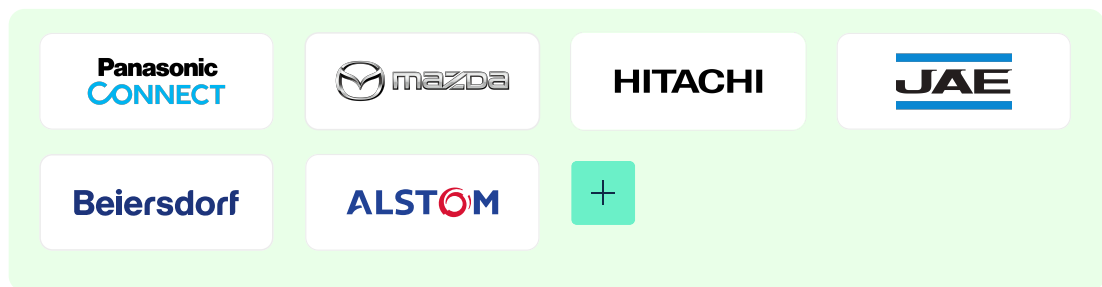


出典：2024 DeepL Manufacturing User Research

4.3

大手メーカーの成功事例

ここでは、DeepLを採用して言語の壁を取り払い、業務の効率化と円滑なグローバル展開を実現した、製造業の企業をご紹介します。



**Panasonic
CONNECT**

パナソニック コネクト、国境を越えた明確な 意思疎通を実現

日本の多国籍エレクトロニクスメーカーであるパナソニックグループのパナソニック コネクトでは、従業員がDeepLを活用して言葉の壁を乗り越えています。パナソニックのR&D部門でAIテクノロジー開発に従事する大坪紹二氏は、DeepLの主な強みは「翻訳のスピード... (それから) まるで本当に日本語で書いたように自然な訳文」にあると強調します。また、同氏はDeepL Writeはコピーの校正でも平均で他の5、6倍の言い換えを提案するという点で、他の有料の編集サービスよりも優れているとし、分かりやすく迅速な多言語コミュニケーションを可能にするその効果を「実に見事」と評価しています。

[続きを読む](#)



JAE、海外進出に向けてコミュニケーションを効率化

航空電子機器メーカーのJAEは、日本国外への事業拡大に伴い、グローバルなコミュニケーションを簡素化するためにDeepLを利用しています。JAEは、機密性の高い文書を安全に翻訳できるDeepLの高いデータセキュリティを評価しています。DeepLを導入する以前は、営業とマーケティングチームは無料のウェブ翻訳サービスを使用するにあたって、機密性の高い箇所を変更しなければならず、コミュニケーションに混乱が生じていました。一方、IT部門は社内翻訳者との時間のかかるやり取りに苦慮していました。DeepLの導入によって、JAEは文書を即座に翻訳できるようになり、コミュニケーションの精度を高め、応答時間を短縮し、海外のパートナー企業にシームレスに対応できるようになりました。

DeepLは日本の製造業のグローバル進出を支援

調査によると、日本の英語力は非英語圏の113の国と地域の中で87位となっており、そのスキルは低下し続けています¹¹。言葉の壁がグローバル化を複雑にする中、日本企業はその溝を埋める方法としてDeepLに注目しています。

日本の大手メーカーはDeepL翻訳を使用して、技術文書、操作マニュアル、その他の重要情報を正確に翻訳し、国際的なコミュニケーションの円滑化を図り、市場を拡大しています。

¹¹ EF Education First. "EF English Proficiency Index: Japan." n.d. Accessed September 24, 2024.

第5章

国境なきものづくりー 言語の壁を超えた コミュニケーション

「言葉は重要であり、その力はグローバルビジネスに大きな影響を与える競争力になり得ます。DeepLは、言語の壁を過去のものにし、グローバルな製造業に革命をもたらしています」



DeepLの創設者 / CEO
ヤレック・クテロフスキー (博士)

5.1

言語AIの力を安心して頼る

価値をもたらすAIソリューションへの需要が高まる中、言語AIは製造業にとって最も重要な戦略的な投資のひとつとなっています。AIを活用したプラットフォームとソリューションを活用すれば、グローバルな環境でもコスト効率よく、効果的に、パートナー企業、顧客、同僚と円滑に意思疎通を図れます。



製造業の企業は、高精度の翻訳テクノロジーを導入することで、たとえそれが専門性の高い外国語の文章であっても、技術や規制に関する詳細な情報を正確に理解できるようになります。

また社内外の意思疎通を改善するのにも、AI搭載の文章作成アシスタントを活用すれば、高品質でスピーディなコミュニケーションを実現できます。言語AIの力に頼ることで、企業は次のことを実現できます。

- エラーを減らし、製造現場から顧客先まで円滑なコミュニケーションを実現
- 従業員がベストなパフォーマンスを発揮できるよう支援
- グローバル事業を円滑に拡大



言語AIツールの可能性を最大限に引き出すには、適切なアプローチと目的に合ったプロバイダ選びが不可欠です。ここでは、決定の際に役立つヒントをご紹介します。



1 AIをスマートに導入

まずは社内で使い、その後社外にも拡大しましょう。このアプローチなら、誰もが安全な方法で新しい技術やツールに慣れることができます。

2 データプライバシーと知的財産の保護を考慮

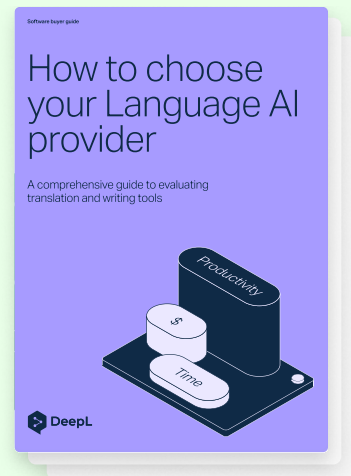
従業員は職場ですでに未許可のAIツールを使用しているかもしれません¹²。それを理解した上で、一般的なデータプライバシーにも対処できることが望ましいでしょう。

3 言語AIのベンダー選びは慎重に

提携するプロバイダが自社と顧客双方のデータ保護要件を満たしているかを確認してください。加えて、時間のかかるトレーニングを必要とせず、直感的かつシームレスなユーザー体験を提供している事も重要です。

パートナー選びに役立つ包括的なガイドンス『言語AIツールの選び方』もお読みください。確認事項を網羅したチェックリストも記載されています。

ガイドをダウンロード



¹² Forrester, "BYOAI Is Here – Make The Right Moves To Benefit from Generative AI At Work," June 23, 2023.

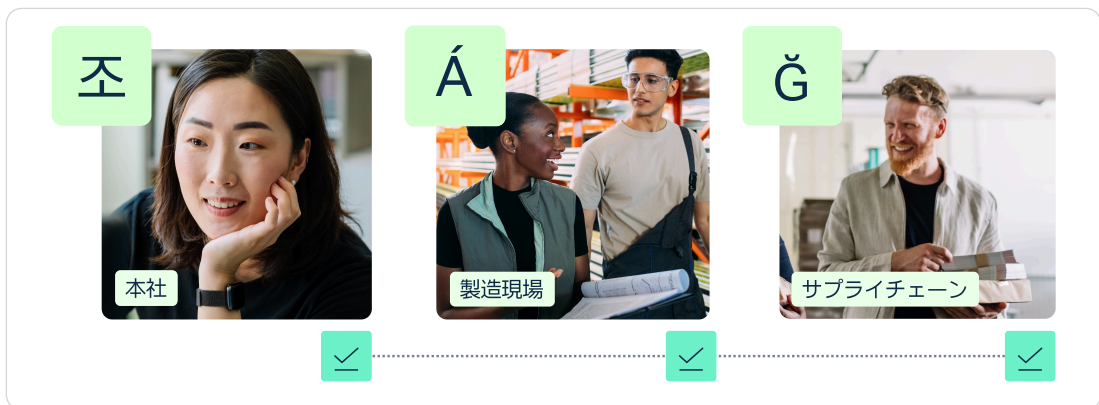
5.2

コミュニケーションにおける課題克服に役立つDeepL

DeepLの事業の中核は、コミュニケーションの課題を解決することです。ドイツの研究者らによって開発されたDeepLのAI技術は、高精度かつまるで人が訳したような自然な翻訳を可能にし、世界中で数百万人ものユーザーに利用されています。ウェブ上の翻訳ツール、ブラウザ機能拡張、デスクトップとモバイルアプリ、およびAPIで使用でき、30以上の言語に対応しています。また対応言語は今後も増える予定です。

専門的な言語データで学習したDeepLのAIは、他のAI翻訳ソリューションと比較して3倍の精度で翻訳を提供します。ハルシネーションと誤情報のリスクを抑えた、高精度かつ自然な翻訳によって、事業をグローバルに運営する製造業の企業を支援できます。また、カスタマイズ性の高い用語集と文体などの編集機能も備えているため、ブランドの一貫性をどの言語でも確保できます。

DeepLの言語AIソリューション採用することで、製造業の企業も組織全体で多くのメリットを享受できます。



5.3

DeepLを 信頼して次の ステージへ

Fortune 500に名を連ねる企業の半数に加え、多くの大手企業がDeepLに信頼を寄せています。DeepLのソリューションを活用すれば、社内外のコミュニケーションの向上、ブランドメッセージの統一、世界に向けたメッセージの発信が可能になります。ぜひ、DeepLの言語AIソリューションをお試しください。



*2024年7月時点、プロの翻訳者を対象にDeepL調べ

10万社以上のグローバル企業がDeepLを信頼

Fortune 500入りした企業の半数に加え、Alstom、Beiersdorf、マツダ、日立などの大手メーカーが、コミュニケーションを向上させるツールとしてDeepLの言語AIを信頼しています。

DeepLが選ばれる理由

世界の中でも高水準のセキュリティとプライバシー基準

GDPR、ISO 27001、およびSOC 2 Type 2に準拠し、エンタープライズ企業向けのセキュリティを提供するDeepLは、安心して利用できるソリューションです。

セキュリティの詳細

競合他社を上回る品質

DeepLなら翻訳後に必要な編集がChatGPTの3分の1、Googleの半分で済むため、企業は翻訳にかかる時間と労力を大幅に節約できます*。

翻訳精度について

「DeepLの言語AIは、ビジネスにAIを導入する最初の一步として非常に実用的で安全な方法であり、その価値はすぐに実感できるでしょう」

DeepL 最高収益責任者 David Parry-Jones

「DeepLのおかげで、素早く正確に文書を翻訳できるようになりました。国際的な協働が容易になった上に、時間も節約できるようになりました。DeepL翻訳のプラットフォームは使いやすくユーザーフレンドリーなだけでなく、精度も優れているため、翻訳の質を上げられます。総じて、DeepLはグローバル規模のコミュニケーションに対応できる効果的なソリューションとして、国際ビジネスに欠かせないツールです」¹³

Porsche プロダクトマネージャー Robin
OMR Reviews, 2024.

製造業におけるグローバル事業の効率化にDeepLをご活用ください

言語の壁を取り除き、作業負担を軽減し、グローバル事業を進展させて成功に導くための一歩を踏み出しましょう。

[製造業向けDeepLの詳細](#)



DeepLの取り組みの源は、人々が抱えるコミュニケーション上の課題を解決したいという思いにあります。2017年にドイツのリサーチャーらが設立したDeepLは、非常に高精度なAI技術を駆使して、滑らかな翻訳をリアルタイムに出力します。30以上の言語に対応したDeepLのウェブ上の翻訳ツールやブラウザ拡張機能、デスクトップアプリとモバイルアプリ、そしてAPIで、最高レベルの翻訳体験をお届けします。

¹³ OMR Reviews, 2024.



一般的な免責事項：

本ガイドはあくまで手引きであり、特定の目的に対する適合性を保証するものではありません。購買者は各自で精査されることをお勧めします。DeepLは、いかなる場合においても、本ガイドに記載された内容への依拠に起因または関連して生じたいかなる損失または損害についても責任を負いません。

著作権の免責事項：

© DeepL SE 2024. All rights reserved. 本ガイドの著作権はDeepLに帰属します。いかなる当事者も、複製または二次的著作物を作成することは許可されていません。



DeepL SE
Maarweg 165,
50825 Cologne, Germany
info@deepl.com